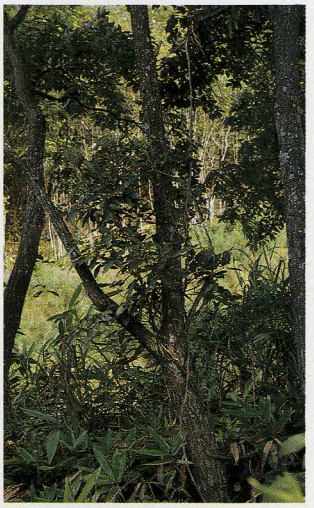
PHOTO ESSAY −25−

東広島キャンパスの生き物

文写真 出口智也
(Deguchi, Tomoya)
理学部生物科学科４年生

ヒラタクワガタ

Serrognathus platymelus



クワガタの生息する雑木林

ヒラタクワガタの雌

ヒラタクワガタの雄

今年の六月、他の虫たちと一緒に、ヒラタクワガタが東広島キャンパスの街灯に飛来してきた。体長六十三ミリもありこの種においては大型のものであった。私は小学生の頃よくクワガタムシを採集してきて飼育していたので、その頃の興奮を思い出してしまった。

クワガタムシという呼び名の由来は、発達した顎が武士のかぶった兜の前についている鍬形（くわがた）という飾りに似ていることからきている。また、ヒラタクワガタは特に偏平な体形をしているのでそう呼ばれている。このクワガタムシは偏平な体形をしているためヒラタクワガタと呼ばれている。

ヒラタクワガタは、大きい雄で体長が約七十ミリにも達し、見た感じは光沢があり、頑丈そうで力が強く、オオクワガタに引けを取らない。それもそのはず、ヒラタクワガタはオオクワガタと同じ属なのである。私もクワガタムシを飼っていた頃には、ヒラタクワガタに魅せられそれを好んで飼っていた。しかし、面倒なことに、大きなヒラタクワガタを飼うときには一匹ずつ水槽の中で飼わなければならない。その理由は、大きなヒラタクワガタを他のクワガタムシと一緒に飼っていると、すぐに喧嘩を挑み他のクワガタムシを殺してしまうからである。縄張り意識が強いのであろうか。また、ノコギリクワガタやミヤマクワガタと違って、成虫で越冬をするため大事に飼ってやると二年程度は飼育できる。

クワガタムシはクヌギ、コナラ、サクラなどの樹液の出やすい木を好んで集まってくる。皆さんも夜中にこれらの木を見に行くと、ひょっとすればヒラタクワガタに出会えるかもしれません。手で触れる際には、挟まれないように気をつけてください。

西条にはヒラタクワガタの他にも、ノコギリクワガタ、ミヤマクワガタ、コクワガタなどが多く生息している。人間がこんなに多く生活しているすぐ近くに、多数のクワガタムシが生息しているのは珍しいことである。多分、それは西条に自然がまだたくさん残っている証拠だと思う。

しかし、これからは開発が進み自然が失われていき、クワガタムシも他の生物と同様に棲（す）み場を失うことであろう。多くの動植物が絶滅の危機にさらされている今、なんとかうまく人間と共存していく方法はないものであろうか。人間のあくなき欲望による自然破壊を最小限に留め、野生生物の生息場所を奪わないで欲しい。また、クワガタムシが市場で高値で取り引きされているため、山で採集することを専業にしている人もいると聞く。このような無謀な行為のつけは、やがて人類全体にやってくることは必至である。

街灯などに飛来して車に踏みつぶされたクワガタムシをよく見かけるが、クワガタムシに限らず、そのような危険な状況にさらされている虫たちを発見したら、せめてもの償いとして、見捨てずに山に逃がしてやって下さい。